

グリーンウェーブ

13号

平成13年3月
山口県農業試験場
山口市御堀1419
TEL (083)927-0211
FAX (083)927-0214

やまぐちオリジナル

「アプリコットマリッジ」の生産はじまる!!

農業試験場で開発されたユリ「アプリコットマリッジ」の本格的な生産は平成12年より開始されています。6月の季咲き栽培では、田布施町、豊浦町、下関市の生産者4戸で約1万本、12～1月の促成栽培では田布施町、防府市、豊浦町、日置町で約2万本が生産、出荷されています。市場の評価は高く、今後の生産拡大が期待されています。

「アプリコットマリッジ」は、淡いオレンジ系の花色と、微かな香りが特徴です。また、栽培が容易で、新たに導入する品種として適しています。現在、周年栽培体系づくりと後継新品種の育成に取り組んでいます。



(育種開発部 光永 拓司)

アプリコットマリッジの既存作型体系

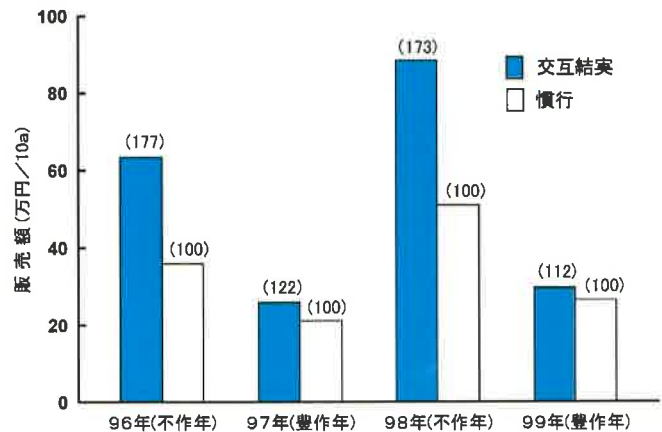
作 型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
季咲き栽培 (リソ片苗)								▽	=====○					
	無加温管理					□	リソ片挿し育苗							
季咲き栽培 (球根)	~~~~~▲	◎	無加温管理				□						△~~~~~	
	球根冷蔵													
年末咲き 促成栽培 + 掘置 2 度 切り栽培	最低温度10℃以上管理					□	△~~~~~▲		◎	最低温度10℃以上管理				□
1・2月咲き 促成栽培	□		最低温度10℃以上管理					△~~~~~▲		◎				
3 月咲き 促成栽培	□													
	最低温度10℃以上管理													

▽：挿し芽 ◎：定植 △▲：低温処理 □：開花

樹別(園地別)交互結実による 高糖系ミカンの連年生産技術

ウンシュウミカンは糖度が高い反面、果実が大きくなりすぎることや隔年結果が強い性質を持っています。そこで、園地を分割して毎年交互に結実させる方法により、これらの問題を解決する技術を開発しました。

生産樹では慣行栽培の約2倍量、遊休樹の分まで結実させるため、単位面積では毎年安定した収量が確保できます。また、倍量結果させることで、商品性の高いM・L級果実が生産できます。



第1図 栽培方法の違いと10a当たりの販売額
()内の数値は慣行栽培を100とした場合

技術の特徴

夏季せん定：7月20日の前後10日間に遊休樹を夏季せん定して夏枝を発生させ、結果母枝にします。せん定はいわゆる予備枝設定の形で行い、せん定枝の数は樹冠1m³当たり15～16本（樹冠全体の除葉率は30～40%が適当）とします。

摘果方法：9月上旬から10月上旬にかけて、3L級以上の極大果と2S級以下の極小果を除去する程度で、基本的にはほとんど摘果しません。

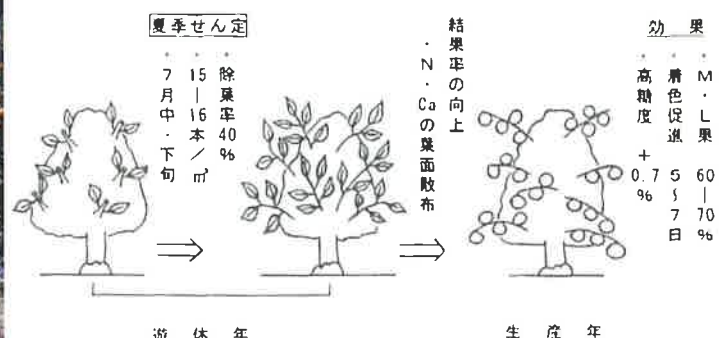
施肥方法：夏季せん定前の遊休樹への夏肥は慣行の倍量（N：10kg/10a）施用します。次に、開花結実量の安定のため、遊休樹への秋肥を早めに施用します。生産樹では果実品質向上のために夏肥を慣行の倍量（N：10kg/10a）施用するのが有効です。

病虫害防除：生産樹への防除は慣行と同じです。一方、遊休樹には、夏季せん定後のミカンハモグリガの防除は必要ですが、他の病虫害防除は基本的には不必要です。

（大島柑きつ試験場 宮田 明義）



手前：遊休樹、奥：生産樹



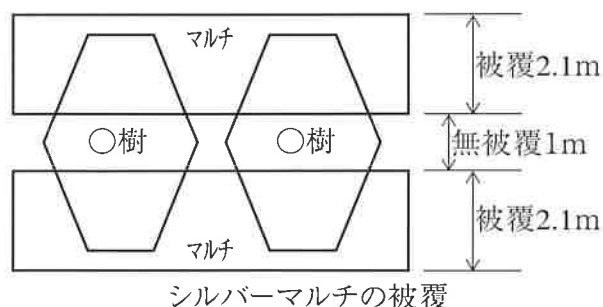
シルバーマルチ被覆による カキ「西条」の汚染果軽減技術

條紋型汚染果は生理障害の一種で、果頂部から赤道部にかけて横方向の亀裂が生じ、亀裂が深いと黒変します（写真）。

9月から収穫期にかけての果実の急激な肥大にともなって亀裂が生じるため、肥大後期に図のようにシルバーマルチを被覆して土壤水分の急激な乾湿を抑制することで、條紋型汚染果の発生を約30%減らすことができます。

ただし、條紋型汚染果を減らすためのシルバーマルチ被覆は、労力と経費がかかるので多発する園で行ってください。

（萩柑きつ試験場 杉本 健治）



條紋型汚染果

ガーベラの養液栽培における 大苗定植法(栽培方法)

大苗定植法では、育苗は5号硬質プラスチック鉢、鉢用土は、「キクド」と鹿沼土の混合培土を利用します。定植は苗が開花し初め、ロックウールマットの上に鉢を直接載せます。根は鉢底の穴からマット内に侵入します。株の生育が旺盛になるため、芽かぎ・葉かぎを徹底する必要があります。大苗定植法のメリット

- ・株の生育が旺盛になり、採花本数が増加する。
- ・収穫期間が延長でき、未収穫期間が無い。
- ・単位面積当たりの採花本数が50%増加する。
- ・定植適期幅が拡大できる。
- ・葉裏や株元への農薬散布が徹底できる。
- ・定植3年目でも株の生育は旺盛になる。

（栽培技術部 安良田 勉）



大苗定植法 定植状況 慣行

大苗定植法



慣行栽培法



ガーベラの作型

伝統野菜の紹介

彦島春菜



関門海峡を望む下関市彦島で、中国野菜タアサイの血を引く長崎白菜から改良され、春先の菜として栽培されてきました。今、下関市で復興の取り組みが始まっています。葉はちりめん状で緑色が濃く、葉筋まで着色する半結球性のツケナの仲間です。漬物、煮物、油炒め等に適しています。沿岸部では2月から3月にかけて収穫できます。

あざみな



カラシナの仲間で、葉がちりめん状で、さわやかな辛味を持っています。アメリカの品種が山口県に土着したものとわれ、県内各地で栽培や野良生えが確認されています。冬から春先にかけて、葉をかぎ取って、サラダ、浅漬、料理の装飾等に利用されています。試験場では県内の分布を調査しています。

(徳佐寒冷地分場 片川 聖)

《豆知識》 トマトハモグリバエ

トマトハモグリバエは、平成11年に県内の雨除けトマトで発生し、国内で初めて農作物の被害が確認された新しい害虫です。マメハモグリバエの近似種であり幼虫、成虫とも非常によく似ています。加害作物はウリ科、ナス科、マメ科、キク科と幅広く、今後、トマト以外の他作物にも被害が拡大するおそれがあります。ハモグリバエ類による被害が多発する場合は、試験場などに種の特定を依頼して下さい。

(病害虫部 殿河内 寿子)



トマトハモグリバエ成虫 体長約2mm



幼虫によるトマトの被害 絵描き虫とも呼ばれる